

# 「アナログ技術」高度化へ

## 群大に來月 新研究会

デジタル技術を支えるアナログ技術について、研究者や技術者どうしの交流促進を目的とした「群馬大学アナログ集積回路研究会」が10月10日、発足する。「アナログ」という言葉の響きにはどこか古びたイメージが付きまとうが、デジタル技術とアナログ技術とは本来は表裏一体。デジタル技術の高度化が進めばその分、アナログ技術の高度化もまた必要不可欠となる。群馬県では4月から、地域経済活性化施策である「ぐんま星雲クラスター構想」の一分野として、アナログ技術にかかわる産業育成に力を入れており、研究会の設立によりアナログ技術の研究、開発、技術者育成などに一層拍車がかかりそうだ。

## 技術者の交流通じ 人材育成などに力

デジタル技術を支える「です」。研究会設立の発案者、起人の一人である群馬大学工学部電気電子工学科の山本テナで受けた微弱な電波から必要な信号を読み取り、信号を増幅し、デジタル信号に整形する。この作業がアナログなん

です。研究会設立の発起人の一人である群馬大学工学部電気電子工学科の山本テナで受けた微弱な電波から必要な信号を読み取り、信号を増幅し、デジタル信号に整形する。この作業がアナログなん

グ。つまり、システムの目や耳の役割を果たし、自然界とデジタルをつなぐのがアナログだといふ。

デジタルの理論設計と異なり、物理的なものづくりにかかわる分野。経験や洞察が要求される分野で、日本の技術力を支えた産業分野でもある。デジタル技術の高度化に伴い、いま再び、高速、低消費電力、低雑音、高精度の先端アナログ技術が求められている。しかし、アナログ技術の研究は遅れ、今日では欧米に主導権を握られているのが現状。アナログ技術者の数自体も減少している。

今回の研究会では研究者や技術者の交流を通じて、アナログ集積回路技術の研究、開発、人材育成に力を入れる。「群馬県にはルネサステクノロ

ジと三洋電機という日本でも有数のアナログ集積回路の研究開発拠点がある。こうした技術集積も、今回の研究会設立と関係する」と山越教授。

10月10日午後2時から、桐生市市民文化会館で設立総会を開催、講演会なども開催する予定。

設立後はすでに活動が始めている「アナログ関連企業連絡協議会」とも連携しながら、アナログ技術の研究開発に力を注ぐ予定だ。